

平成13(2001)年1月~6月 長期漁況海況予報 平成13(2001)年1月発行



大分県海洋水産研究センター 879-2602 大分県南海部郡上浦町大字津井浦

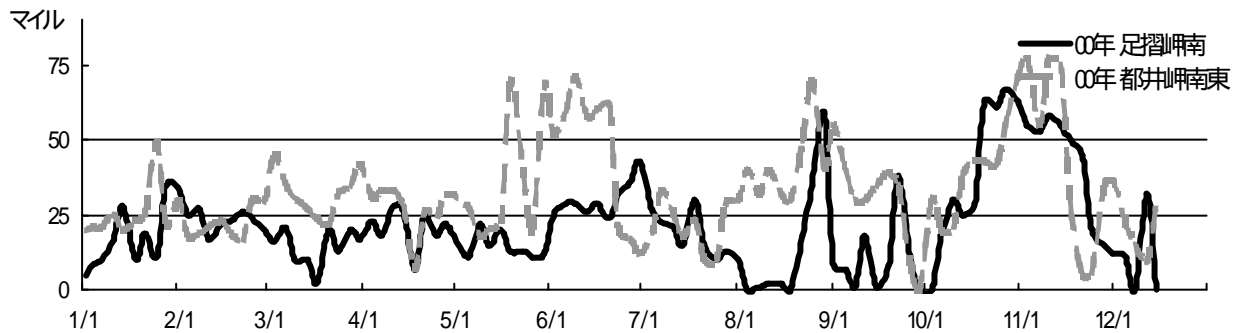
Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

海況経過<平成12年後期>

黒潮

6月上旬~中旬に九州南東沖に形成された黒潮小蛇行は、種子島~潮岬間を約1カ月で東進し、7月中旬に潮岬を通過しました。9月中旬にも九州南東沖に黒潮小蛇行が形成され、9月下旬~10月中旬に足摺岬沖~室戸岬沖を通過しました。また、10月中旬には種子島南東沖で黒潮小蛇行が形成され、11月上旬にかけて日向灘沖~土佐湾沖~紀伊水道外域へと陸岸に沿って北東方向へ細長く規模を拡大しました。

黒潮北縁と都井岬、及び足摺岬との距離の状況は、期間を通して離接岸を繰り返しました(南西東海沿岸海況速報による)。



足摺岬：接岸0~25マイル やや離岸25~45マイル 都井岬：接岸0~30マイル やや離岸30~50マイル

図1 足摺岬南方及び都井岬南東方向の黒潮北縁までの距離(マイル)

水温(表1参照)

豊後水道の水温は、「やや高め」~「平年並」でした。大分県側の海域を北部(沿岸定線Sta.1-9)、中部(同Sta.10-16)及び南部(同Sta.17-22)に分けると、北部では7月から9月にかけては各層「平年並」でしたが、10月は「やや高め」であることが多く、11月は各層「やや高め」、12月は各層「平年並」でした。中部では当該期間中、11月を除き、各層「平年並」で、10月は各層「やや高め」で推移しました。南部では当該期間中、10月を除き、各層「平年並」であることが多く、10月は各層「やや高め」であることが多い状況でした。

伊予灘と別府湾では、「高め」~「低め」でしたが、各層において、7月から8月にかけて「平年並(マイナス基調)」~「やや低め」、9月は「平年並」、10月は「やや高め」、11月は「高め」であることが多く、12月は各層「やや高め」で推移しました。

塩分

豊後水道の塩分は、「やや高め」~「低め」でした。特に、北部の8月は各層「高め」、中部及び南部の11月は各層「やや低め」~「低め」でした。

伊予灘と別府湾では、「やや高め」~「低め」でした。8月から9月にかけては各層「やや高め」であることが多く、その他の期間は各層「平年並」であることが多い状況でした。

表1 沿岸水温の平年偏差の評価（2000年）

海域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
伊予灘	0m	+	+	- +	+ -	+ -	+ -	- -	+ -	+	+	+
	10m	+	+	- +	+ -	-	- +	-	+ -	+	++	+
	20m	+	+	- +	*	-	- +	- +	+ -	+	++	+
	30m	+	+	- +	*	- +	- +	- +	+ -	+	++	+
	50m	+ -	+ -	- +	*	- +	+ -	- +	- -	+ -	+	+
別府湾	0m	+ -	+	- +	+ -	+	+ -	++	- +	+ -	+	++
	10m	+	+ -	- +	+ -	-	-	-	- +	+	++	+
	20m	+	+ -	- +	+ -	-	- +	-	- +	+	++	+
	30m	+ -	+ -	- +	+ -	-	+ -	-	- +	+	+	+
豊後水道 北部	0m	+	-	- +	+ -	++	+	+ -	+ -	- +	+	+ -
	10m	+	-	- +	- +	+	+	+ -	- +	+ -	+	+ -
	20m	+	-	- +	- +	+	+	+ -	- +	+ -	+	+ -
	30m	+ -	-	- +	+ -	+	+	+ -	- +	- +	+	+ -
	50m	+	-	- +	+ -	+ -	+	+ -	- +	- +	+ -	+ -
豊後水道 中部	0m	+ -	- +	++	- +	+	+ -	- +	+ -	+ -	+	- +
	10m	+ -	- +	+	- +	+ -	+ -	- +	+ -	+ -	+	- +
	20m	+ -	- +	+ -	+ -	- +	+ -	- +	+ -	+ -	+	- +
	30m	- +	- +	+ -	+ -	- +	+ -	- +	+ -	+ -	+	- +
	50m	- +	- +	+ -	+ -	- +	+ -	- +	+ -	+ -	+	- +
豊後水道 南部	0m	+	-	++	- +	++	-	+ -	+	- +	+ -	- +
	10m	+	-	++	-	++	- +	+	+ -	+ -	+	- +
	20m	+	-	++	-	+	- +	+ -	- +	+	+	- +
	30m	+	-	++	-	+ -	- +	+ -	- +	+	+	- +
	50m	+	-	++	- +	+ -	+ -	- +	- +	+ -	+	- +

注) + + + : かわめて高め + + : 高め + : やや高め + - : 高めの平年並 - + : 低めの平年並
 - : やや低め - - : 低め - - - : かわめて低め * 中止

海況の見通し<平成13年前期>

黒潮

薩南海域の黒潮北縁は予測期間前半は屋久島付近での変動で、後半は屋久島付近あるいはその南での変動を主とした離岸傾向で推移するでしょう。

潮岬以西における黒潮流軸の変動としては、1月に九州南東沖で小蛇行が形成されるのに伴い、室戸岬～潮岬沖で接岸傾向となり、2～3月に小蛇行が四国沖を東進し、九州南東沖で接岸傾向、室戸岬～潮岬沖で離岸傾向となるでしょう。4月には室戸岬～潮岬沖で接岸傾向となり、九州南東沖で小蛇行が形成され、5～6月に小蛇行が四国沖を東進し、九州南東沖で接岸傾向、室戸岬～潮岬沖で離岸傾向となるでしょう。

潮岬以西では黒潮の小蛇行の通過や小規模な離接岸変動に伴って、沿岸域への一時的な暖水波及や内側反流の形成が起こるでしょう。

水温

「平年並」～「高め」でしょう。

予測の根拠

中央水産研究所黒潮研究部及び関係府県：平成12年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ長期漁況予報会議資料（2000）
 福岡管区気象台：九州北部地方3か月予報（2000）、九州北部地方寒候期予報（2000）

資源状況と漁況経過 <平成12年後期>

マイワシ

昨年までの経過

鶴見町、米水津村及び蒲江漁業協同組合のまき網（特にことわりのない限り、まき網についての数値は、この3組合に関するもの）によるマイワシの漁獲量は、1986年から1990年までの間は、年間30,000トン前後の漁獲があり、その大半は3月から7月に漁獲される体長15cm以上の「中羽」以上でした。

1991年以降、「中羽」以上は減少傾向となり、一方、7月から9月にかけて主に漁獲される体長10cm前後の「小羽」も1993年に、一旦、増加しましたが、その後は低調に推移しました。全銘柄の漁獲量は一昨年（1998年）まで8年連続で減少し、昨年（1999年）は約700トンと前年に比べ僅かながら増加しました。

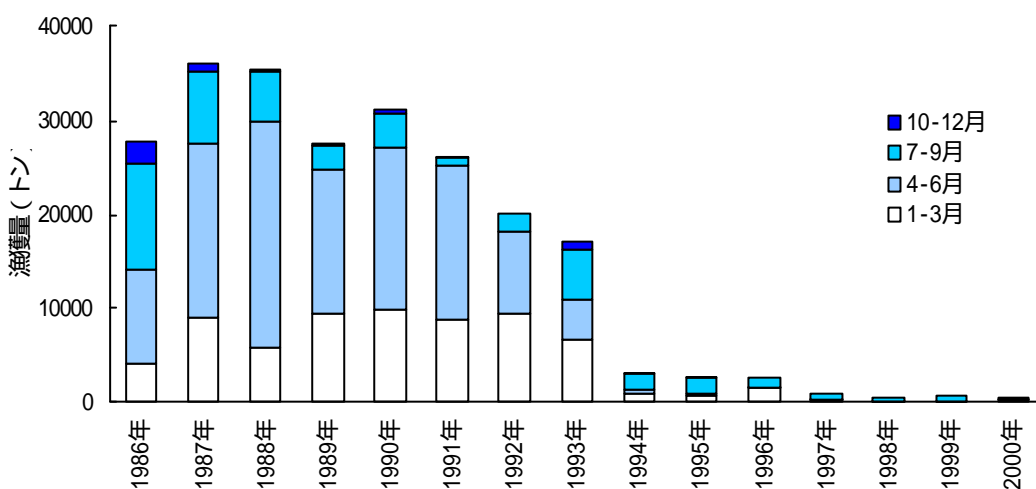


図2 マイワシのまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江漁協）

本年の経過

2000年下半期の月別漁獲量は0～46トンの範囲で、1986～1999年の同期平均値との比（以下「**平年比**」という）は0～4%（7～9月の四半期で2%）と、ほとんど漁獲がなく、依然として低水準で推移しました。

カタクチイワシ（成魚）

昨年までの経過

まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、これまで一年毎に増加と減少を繰り返しており、漁獲の多い年（偶数年）で3,000トン前後、漁獲の少ない年（奇数年）で1,000～2,000トン程度の漁獲となっていました。しかし、昨年（1999年）は1月中旬から7月中旬にかけて豊漁が続き、1986年以降最高の漁獲となりました。平年の漁期は6月から9月までが中心なので、1999年は漁獲量及び漁期とも特異的な年となりました。

本年の経過

2000年下半期の月別漁獲量は1～480トンの範囲で、平年比は2～130%となりました。このうち、平年を上回る漁獲があったのは8月（407トン、平年比130%）のみで、7～9月の四半期の平年比は91%となりました。また、10月（16トン、平年比12%）、11月（1トン、平年比2%）と、さらに低調に推移しました。

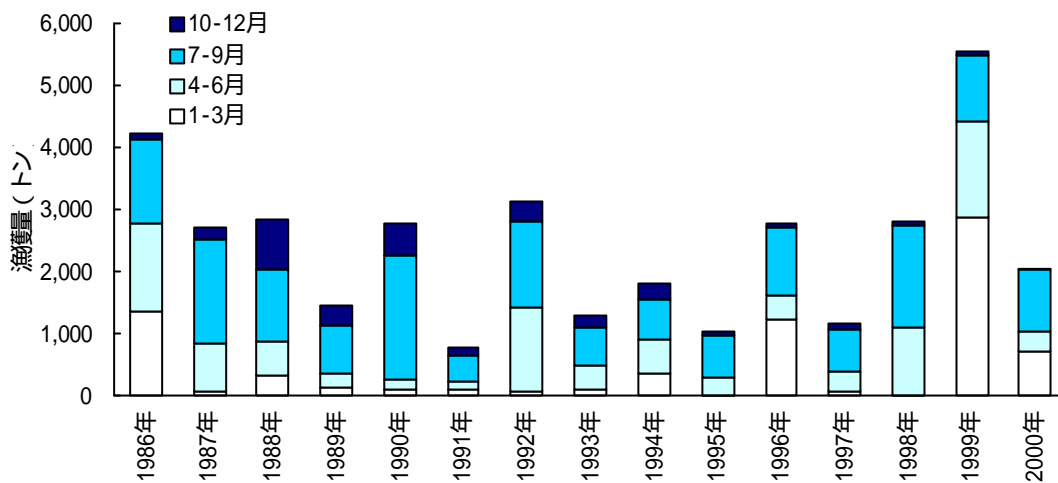


図3 カタクチイワシのまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江漁協）

カタクチイワシ（シラス）

昨年までの経過

佐伯湾（佐伯・鶴見）の船曳網によるシラスの漁獲量は、1992年に約530トンの最高値を記録した後は、減少傾向となり、1995年に約170トンと最低値を記録しました。その後は、増加傾向を示していますが、1993年以前には及びませんでした。

別府湾（杵築・日出）では、1991年以降1,200～2,200トンの範囲で変動しました。1998年の漁獲量は、1991年以降初めて1,000トンを超え、約750トン（平年比49%）と最低値を記録しましたが、昨年（1999年）は再び1,000トンを超える水準となりました（以下、船曳網の平年値を1991～1999年の平均漁獲量とする）。

臼杵・津久見湾では、漁獲変動が大きく、0～105トンの範囲で推移しました。昨年（1999年）の漁獲量は38トンで、平年比102%となりました。

推計方法：別府湾の漁獲量＝製品（ちりめん）重量×2.514、豊後水道の漁獲量＝製品（ちりめん）重量×2.380

本年の経過

2000年下半期の月別漁獲量は、佐伯湾では7～72トンの範囲で、平年比は22～142%となりました。このうち、7月（平年比40%）、8月（平年比22%）は不漁でしたが、その後、9月（平年比142%）、10月（平年比134%）と平年を上回りました。別府湾では60～220トンの範囲で、平年比は30～75%と、いずれも平年を下回りました。このうち、9月に117トン、10月に87トンの漁獲があり、近年のこの時期の漁獲としては高い値を示しました。臼杵・津久見湾では0～4トンの範囲で、平年比は0～208%となりました。

ウルメイワシ

昨年までの経過

まき網によるウルメイワシの漁獲量は、1986年以降100～300トン程度でしたが、1992年以降は増加傾向を示し、1996年には約2,300トンまで達しました。しかし、1997年以降は減少傾向に転じています。漁獲は主に夏期の6～8月に多く、近年は冬期の1～3月にもまとまった漁獲がみられました。

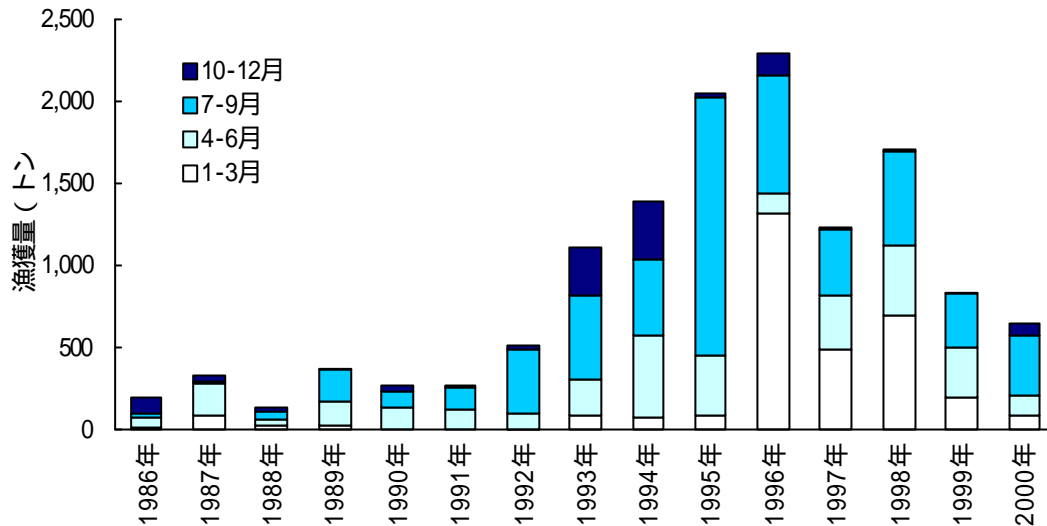


図4 ウルメイワシのまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江漁協）

本年の経過

2000年下半期の月別漁獲量は27～283トンの範囲で、平年比は21～256%となりました。このうち、8月は283トン、平年比256%とまとまった漁獲があり、7～9月の四半期の平年比は94%と平年をやや下回りました。また、10月は42トン（平年比132%）、11月は27トン（平年比177%）と平年を上回る漁獲になりました。

マアジ

昨年までの経過

1986年以降、減少傾向にあったまき網のマアジの漁獲量は、1991年に1,000トン进行込みましたが、その後は増加傾向に転じており、1998年には約7,500トンの漁獲量で、1986年以降の最高値となりました。昨年（1999年）前半も継続して豊漁でしたが、8月以降一転して激減し、年間漁獲量は対前年比50%の約3,600トンとなりました。

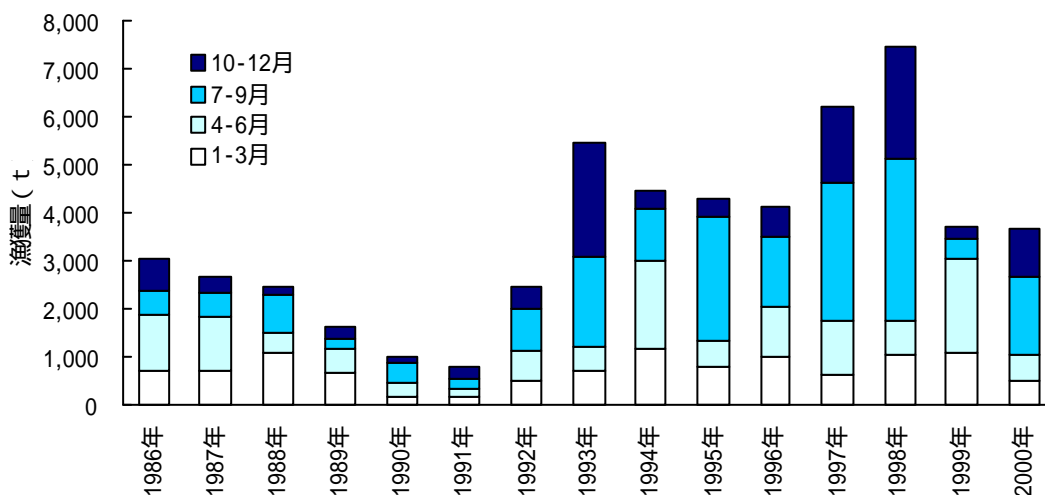


図5 マアジのまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江漁協）

また、佐賀関町漁協の釣り主体の漁獲量は、1988年以降増加傾向で、昨年（1999年）は248トンに達し、最高値となりました。まき網で漁獲されるマアジ「大」（ふ化後1年以上経過）は年間漁獲量が1,000トン前後で増減を繰り返しているのに対し、釣りの漁獲対象となるマアジ（ふ化後2年以上経過）は漁獲量が毎年、安定して増加していました。

本年の経過

まき網による2000年下半期の月別漁獲量は105～911トンの範囲で、平年比は27～213%となりました。このうち、7月は105トン、平年比27%と昨年後半からの不漁が継続していましたが、8月以降、豊漁に転じ、7～9月の四半期の平年比は135%と平年を上回りました。また、10月（平年比159%）、11月（平年比155%）も平年を上回る漁獲となりました。

佐賀関町漁協の釣りでの2000年下半期の月別漁獲量は4～24トンの範囲で、平年比（佐賀関町は1988～1999年の平均値で計算）は28～134%となりました。このうち、8・9月の漁獲量は平年を上回りましたが、その他の月は漁獲が伸びず、これまでの安定的な増加傾向にかげりがみえています。

マサバ・ゴマサバ

昨年までの経過

まき網による「さば類（マサバ・ゴマサバ）」の漁獲量は、1993年以降増加傾向を示し、1996年及び1997年には、それぞれ約14,000トンと約12,000トンをおいて豊漁となりました。「さば類」のうち、マサバは、近年、漁獲がほとんどない状況であり、一方、ゴマサバは、1994年以降体長25～28cmの個体を中心に漁獲され、豊漁だった1996年は9月から10月中旬にかけて、1997年は8月から9月にかけて漁獲がピークに達し、記録的な漁獲となりました。しかし、1998年は一転してほとんど漁獲がなく、1,000トンを割り込んで1986年以降最低を記録しました。昨年（1999年）は8月下旬から10月中旬にかけてのまとまった漁獲により、最終的には約2,800トンとなりました。

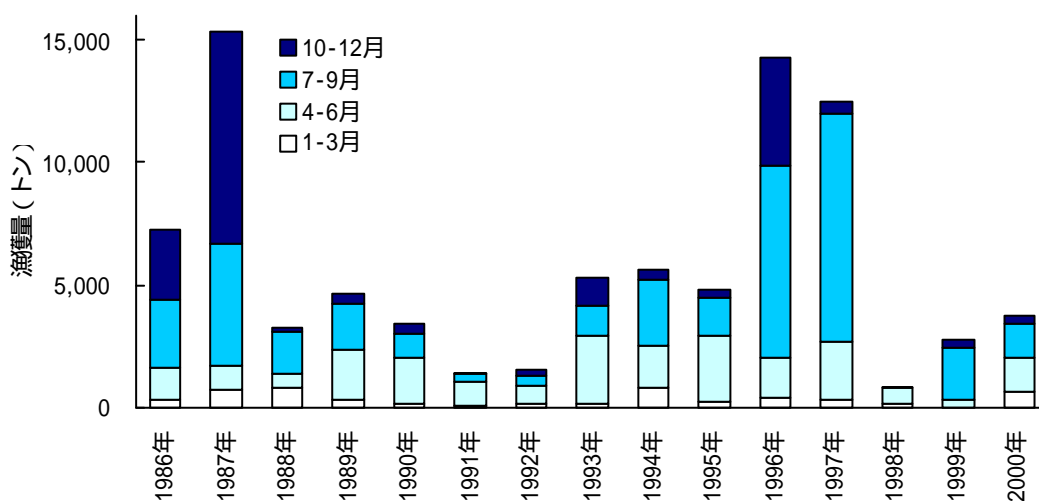


図6 「さば類」のまき網漁獲量（鶴見町・米水津村・蒲江漁協）

また、佐賀関町漁協での釣りによるマサバの漁獲量は、豊漁であった1992年と1993年を除き、ほぼ100～200トンの範囲で変動し、1997年以降は減少傾向となりました。また、2～3年の短い周期で増減を繰り返す変動傾向もみられました。

本年の経過

ゴマサバを主体とするまき網による2000年下半期の月別漁獲量は、76～947トンの範囲で、平年比は14～132%（7～9月の四半期は48%）となりました。このうち、7月は小さばサイズを中心に平年を上回る漁獲（947トン、平年比132%）がありましたが、8月以降は平年比14～31%と大きく落ち込んでいます。

佐賀関町漁協で漁獲されたマサバの2000年下半期の月別漁獲量は、1～10トンの範囲で、平年比は10～69%となり、平年を大きく下回りました。

漁況の見通し < 平成13年前期 >

マイワシ

【太平洋系（北薩 - 熊野灘）の見通し】

熊野灘の成魚は前年を大きく下回るでしょう。豊後水道東部の成魚も前年を下回るでしょう。その他の海域ではシラス、未成魚、成魚とも前年並みの低水準でしょう。

[説明] 近年では豊度が高かった 1998 年級群は、これまでの漁獲によりほとんど残っていないと考えられます。1999 年級群は、コホート解析結果から極めて低い豊度と判断され、漁場にもほとんど出現していません。2000 年級群は、1999 年級群より高豊度であると推測されますが、黒潮流路予測等から判断して、当該海域への来遊量は前年を大きく下回ると予想されます。



【大分県の見通し】

0 歳魚の来遊水準は低いままであり、1 歳魚以上についても来遊水準が高まったといえる状況にはならないでしょう。全体としては、前年並の低水準となるでしょう。

カタクチワシ（成魚・シラス）

【太平洋系（北薩 - 徳島）の見通し】

北薩～日向灘では豊漁の前年を下回るでしょう。豊後水道でも前年を下回るでしょう。高知～徳島では前年並みでしょう。

[説明] 豊度の高かった 1998 年級群はすでに高齢となっており、1999 年級群の豊度は、これまでの漁況経過の推移から相当低いと推定されます。2000 年級群の豊度も、九州～四国の一部の海域を除いて低いと推定されます。



【大分県の見通し】

成魚は 0 歳魚の漁獲が大半で、来遊水準は低位、減少傾向にあると考えられ、前年を下回るでしょう。また、シラスは、前年・平年を下回るでしょう。

ウルメイワシ

【太平洋系（北薩 - 熊野灘）の見通し】

北薩～日向灘、及び徳島～熊野灘では不漁の前年並みか前年を下回るでしょう。豊後水道では前年並みか前年を上回るでしょう。土佐湾では前年並みの好漁となるでしょう。

[説明] これまでの漁況経過の推移から、来遊水準の高い海域と低い海域が見受けられます。



【大分県の見通し】

来遊水準は減少傾向からやや回復に向かっていると考えられ、平年には及ばないものの、不漁の前年を上回るでしょう。

マアジ

【太平洋系（薩南 - 日向灘・豊後水道）の見通し】

前年を上回るでしょう。

[説明] 資源量は 1997 年以降連続して減少していますが、2000 年級群の来遊量は、薩南～日向・豊後水道では前年を上回ったと推定されるため、例年に比べ 1 歳魚の割合が高まると予想され



【大分県の見通し】

漁獲主体となる1歳魚が高水準にあると考えられ、平年、前年をともに上回るでしょう。

マサバ・ゴマサバ

【太平洋系（薩南・日向灘・豊後水道）の見通し】

ゴマサバ1歳魚は前年を大きく下回り、2歳魚は前年を上回るものの低水準でしょう。マサバは低い水準でしょう。さば類全体としては、前年を下回るでしょう。

[説明] マサバ、ゴマサバともに1997年級群、1998年級群の豊度は低く、1999年級群は前2年に比較して高水準にあります。2000年級群も比較的高いと推定されますが、今のところ各地の加入量には反映されていません。



【大分県の見通し】

ゴマサバ主体に来遊水準は低い状態にあると考えられ、平年、前年をともに下回るでしょう。

その他

予測の根拠

中央水産研究所黒潮研究部及び関係府県：平成12年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ長期漁況予報会議資料（2000）

問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県海洋水産研究センター 企画・海洋資源利用部（〒879-2602大分県南海部郡上浦町大字津井浦 電話0972-32-2155ファクシミリ0972-32-2156 e-mail：kimura@mfs.pref.oitajp）です。